



夏といえは

いつも、みのやまデイケアセンターをご利用頂きありがとうございます。
ございます。

皆さんは「夏といえは」食べ物や言葉から遊びやイベントまで何が思い浮かびますか？

お祭りでお馴染みのかき氷は思い浮かびましたか？

最近では、一年中かき氷を味わうことができず、かつて氷は超贅沢品！清少納言も食べた、日本のかき氷の歴史、夏の風物詩を少し紹介していきます。

かき氷の歴史は古く、平安時代、清少納言の「枕草子」に出てくる「削り氷（けずりひ）」が最初といわれています。「枕草子」第40段「あてなるもの」（上品なもの）の中に「削り氷に甘葛（あまづら）入れて、あたらしき鏡（かなまり）に入れたる」という文章があります。

現代語に訳すと、「削った氷に蔓草の一種である甘葛をかけて、真新しい金属製の椀に入れる」となります。甘葛は砂糖のなかった平安時代、最高の甘味料でした。冷蔵庫や製氷機のない時代、なつの氷は非常に貴重なもので、清少納言が食べたかき氷はとも高貴で贅沢だったということになります。庶民が氷水を口にできるようになったのは明治時代になってからのことでした。

今では当たり前のかき氷機はなく、匏で小さく削ったものを食べていました。今のようなかき氷の形になったのは明治20年。現在ではふわふわとした舌触りの滑らかな氷を食べられるようになりましたが、基本的な形は明治時代から大きくは変わりないそうです。

気温が30度を超えただけでぐったりしてしまうのに、40度超えには驚きですよね。最近では海外のかき氷も日本で気軽に楽しめるようになりました。かき氷で暑い毎日を美味しく乗り切りましょう。



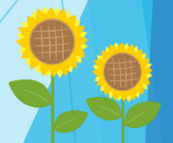
異動のお知らせ ～お世話になりました～

美杉会の願い（法人理念）

- 私たちは、患者さんの苦痛をすみやかに和らげることに努めます。
- 利用者さんが心豊かで安心した生活を送れるよう支援します。
- 常に向上への志をもちます。
- 医療・保険・介護を包括的に行い、地域社会へ貢献します。



介護職
山口 一樹



7月下旬よりくずは西美郷に異動する事になりました。
みのやまデイケアのご利用者様、ご家族様には感謝しております。
3年間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。